

記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18

Memories Penetrate the Ground and Permeate the Wind: Contemporary Japanese Photography vol. 18

2021年11月6日[土] - 2022年1月23日[日]



吉田志穂 | Yoshida Shiho

潘 逸舟 | Han Ishu

小森はるか+瀬尾夏美 | Komori Haruka + Seo Natsumi

池田 宏 | Ikeda Hiroshi

山元彩香 | Yamamoto Ayaka

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するため、新しい創造活動の展開の場として「日本の新進作家」展を2002年より開催しています。

18回目となる本展では「記憶は地に沁み、風を越え」をテーマとして、私たちの身体と土地、風景、そしてその記憶との関わり合いについて、多様なアプローチで追求する作家5組6名の写真・映像表現を紹介します。

本展について

グローバル化とボーダレス化のあり方が変容し続ける社会にあっても、歴史、風習、伝承など、それぞれの地域や土地特有の記憶は様々な形で遺り続け、そこには多様な価値観が存在します。しかしながら一方で、私たちの想いは、ときに風のような軽快さをもってあらゆる境界を越え、他者と向き合う方法を見出してくれます。居続けることと移動とを繰り返してきた人類の歴史の中で、今、私たちはどのように土地・風景と対話し、他者とどのように関わることができるのでしょうか？

デジタルとアナログのハイブリッドによって、風景・イメージの多層的なレイヤーを作り出す吉田志穂。自身のパフォーマンスによる映像を通して、風景と個人の関係を探る潘逸舟。自然災害とそこに暮らす人々、そしてその伝承・語りを作品化する小森はるか+瀬尾夏美。10年以上にわたりアイヌの人々を撮影し、民族という類型化に疑問を投げかける池田宏。馴染みのない地域で、言語を越えて、身体と無意識の関係性を追求する山元彩香。これらの作家たちによる表現を通して、私たちの生きる現在を考える上で、ひとつの手がかりを与えてくれるかもしれません。

作家紹介および主な出品作品

吉田志穂 | Yoshida Shiho

1992年、千葉県生まれ。2014年東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。吉田の作品では、インターネットでの画像検索によって被写体となる場所をリサーチし、実際にその場所に足を運び撮影するという、デジタルとアナログの間を往来する制作手法により、多層的な時空間が表現されている。主な個展に、「Quarry / ある石の話」(Yumiko Chiba Associates、東京、2018年)、「測量 | 山」/「砂の下の鯨」(資生堂ギャラリー、東京、2017年)、グループ展に「TOKAS-Emerging 2020」(トーキョーアートアンドスペース、2020年)、「VOCA展 2018 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、2018年)などがある。



吉田志穂

〈砂の下の鯨〉より 2016年

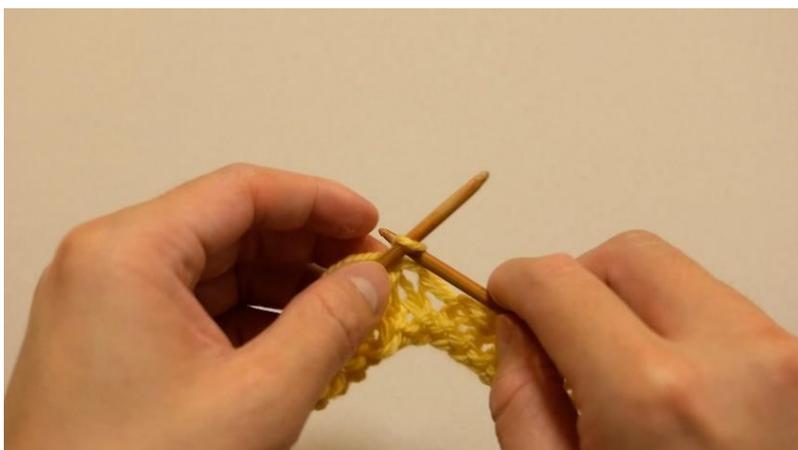
インクジェット・プリント

©Yoshida Shiho, courtesy of Yumiko Chiba Associates

出品点数 | 計 12 点

潘 逸舟 | Han Ishu

1987年、上海生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。社会と個、他者と自己、風景という他者と自己との関係性を作品のテーマとして、映像、インスタレーション、写真、絵画など様々なメディアを用いて制作を行う。映像作品では、自らのパフォーマンス映像を多く制作している。主な個展に「The Drifting Thinker」(MoCA Pavilion、上海、2017年)、グループ展に「In the Wake - Japanese Photographers Respond to 3/11」(ボストン美術館、2015年/ジャパン・ソサエティー、NY、2016年)、「アートセンターをひらく第I期」(水戸芸術館現代美術センター、2019年)など。2020年、「日産アートアワード」グランプリ受賞。



潘 逸舟

《トウモロコシ畑を編む》2021年
2チャンネルビデオ
©Han Ishu, courtesy of ANOMALY

出品点数 | 計4点

小森はるか+瀬尾夏美 | Komori Haruka + Seo Natsumi

小森はるか(映像作家/1989年生まれ)と瀬尾夏美(アーティスト/1988年生まれ)によるアートユニット。2011年3月、東北の被災地にボランティアとしてふたりで赴いたことをきっかけに、ユニットの活動を開始する。2012年から3年間、岩手陸前高田市で暮らしながら制作を行う。2015年には陸前高田から仙台に拠点を移し、一般社団法人NOOKを設立。各地で対話の場づくりを行い協働しながら、風景と人々の言葉の記録を作品制作の軸としている。主なグループ展に「記録と想起—イメージの家を歩く—」(せんだいメディアテーク、2014年)、「日常のあわい」(金沢21世紀美術館、2021年)など。



小森はるか+瀬尾夏美

《山つなみ、雨間の語らい》2021年
インスタレーション
(写真、映像、サウンド、鉛筆、色鉛筆、紙、
水彩、アクリル、テキスト、資料)
©Komori Haruka + Seo Natsumi

出品点数 | 計1点

池田 宏 | Ikeda Hiroshi

1981年、佐賀県生まれ。大阪外国語大学外国語学部スワヒリ語科卒業。2008年から北海道に通い、アイヌの人々のポートレイトを撮影している。先住民族という括りでは語れない、そこで暮らす個人をとらえてきた。2019年に写真集『AINU』（リトルモア）を刊行。近年の個展に「SIRARIKA」（スタジオ35分、東京、2018年）、「AINU-LANDSCAPE」（スタジオ35分、東京、2019年）、「AINU-PORTRAIT」（Title、東京、2019年）、「SINUYE（シヌイエ）」（創作一心跡地、北海道、2020年）、「現代アイヌの肖像」（東京都人権プラザ、東京、2020-21年）などがある。2020年、日本写真協会賞新人賞を受賞。



池田 宏

《Coppe, 千歳市 2015年9月》〈AINU〉より 2015年
発色現像方式印画

©Ikeda Hiroshi

出品点数 | 計 16 点

山元彩香 | Yamamoto Ayaka

1983年、兵庫県生まれ。京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業。2004年のサンフランシスコへの留学を機に写真の制作を始める。馴染みのない国や地域へ出かけ、そこで出会った少女たちを撮影することで、その身体に潜む土地の記憶と、身体というものの空虚さを写真にとどめようとする。主な個展に「organ」（void+、東京、2019年）など。東欧やアフリカの各地で撮影を行い、国内外で写真展やレジデンスに参加。2019年に出版された写真集『We are Made of Grass, Soil, and Trees』（T&M Projects、2018年）でさがみはら写真新人奨励賞を受賞。



山元彩香

《Untitled #387, Okinawa, Japan》

〈We are Made of Grass, Soil, Trees, and Flowers〉より 2021年
発色現像方式印画

© Yamamoto Ayaka, courtesy of Taka Ishii Gallery Photography /
Film

出品点数 | 計 17 点

公式図録

『記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18』

価格未定、東京都写真美術館発行、全 144 頁

山田裕理（東京都写真美術館学芸員）による論考、出品作家 5 組によるステートメント、作品リストを収録。図録デザイン：須山悠里

関連イベント

アーティストトーク（予定）

開催概要

「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18」

Memories Penetrate the Ground and Permeate the Wind: Contemporary Japanese Photography vol. 18

会期 | 2021 年 11 月 6 日（土）－2022 年 1 月 23 日（日）

会場 | 東京都写真美術館 3 階展示室

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、東京新聞

助成 | 芸術文化振興基金 協賛 | 東京都写真美術館支援会員 協力 | ソニーマーケティング株式会社

電話 | 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 | 10:00-18:00（木・金曜日は 20:00 まで、入館は閉館 30 分前まで）

休館日 | 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始（12/28-1/4、ただし 1/2、1/3 は臨時開館）

観覧料 | 一般 700 円、学生 560 円、中高生・65 歳以上 350 円

* 2022 年 1 月 2 日（日）、3 日（月）は無料。開館記念日のため 1 月 21 日（金）は無料。

* 本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

展覧会担当 山田 裕理 y.yamada@topmuseum.jp / 関 昭郎 / 遠藤みゆき

広報担当 平澤 綾乃 / 池田 良子 / 鈴木 彩子 press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により、内容を変更することがございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。